

_{財団法人} 道路新産業開発機構 Highway Industry Development Organization

〒104-0045 東京都中央区築地7-17-1 住友不動産築地ビル2階 Sumitomo Fudosan Tsukiji Building 2nd Floor 7-17-1 Tsukiji Chuo-ku, Tokyo 104-0045 JAPAN TEL 03-3545-6633 FAX 03-3545-6660







2007年スマートウェイの取り組みに向けて

Toward 2007 Smartway



国土交通省道路局長 **宮田 年耕**MIYATA Toshitaka

Director-General, Road Bureau Ministry of Land, Infrastructure and Transport

狭隘な国土で1億2千万人を超える人口と約7,800万台の自動車が日夜移動をくりひろげるわが国では、年間約116万人が交通事故で死傷しています。また、大量の自動車交通需要は各地で渋滞を引きおこし、国民全体で年間約38億人時間と金額換算で約12兆円もの損失が生じています。

狭隘で急峻な地形による自然的制約や稠密な土地利用による社会的制約等から、新たな道路ネットワークの構築には困難を伴うため、道路資産ストックの有効利用が重要な課題となっています。

さらに、わが国では間もなく総人口及び生産年齢人口が減少し、2020年には人口の25%以上が65歳以上の高齢者になるこれまでに経験したことのない高齢社会になることが予想されています。このような状況から、高齢ドライバーの自由な移動を支え、活力ある社会を実現するための環境整備を急ぐ必要があります。

最先端の情報通信技術(IT)を用いて「人」「道路」「車両」を一体のシステムとして構築するITSは、このような問題を解決しうる有力な手段であるとともに、21世紀の産業・社会構造の変革を支えるインフラストラクチャーです。IT革命が急速に進むなか、道路交通分野における高度な社会サービスの開発及び提供は、人々の生活を安全で豊かなものへと導くことになります。

ナビゲーションシステム高度化を目指したVICS(道路交通情報通信システム)対応のナビは、2006年3月末時点で約1,500万台が活用されております。また、2001年3月から本格運用を開始したETC(ノンストップ自動料金支払いシステム)車載器の出荷台数は1,300万台を超え、利用率も60%を超えたところです。ETCの普及により本線料金所での渋滞がほぼ解消され、環境改善に寄与するとともに、多様で弾力的な料金設定やETC専用のスマートICの設置、更には駐車場等における決済への応用利用も可能となりました。このほかにも、バスロケーションシステムや走りやすさを重視した地図情報の提供など、地域の道路交通課題に対応するITSに関するサービスが展開されており、多くの国民が便益を享受しています。

このように、わが国ではITSが着実に社会に浸透しつつあり、交通渋滞や環境問題を解決する有効な施策として効果を発揮し始めており、スマートウェイは、先端・流行からセカンドステージと言うべき時代を迎え、音声や静止画像を活用して情報を提供するなど、道路交通情報提供の充実を図る2007年からのITSサービスの実現に向け、着実に取り組みを進めているところです。

また、本年1月に内閣総理大臣を本部長とするIT戦略本部において決定された「IT新改革戦略」に基づき、インフラ協調による安全運転支援システムの実用化により、世界一安全な道路交通社会の実現に向けた取り組みを進めているところです。

今後の更なるITSの展開に当たっては、様々な分野とも連携を深めつつ、ITS世界会議や各国とのワークショップなどの国際交流を重視しながら進めてまいります。ITSがこれからの道路行政を牽引する柱の一つとして、ユーザーのニーズを踏まえつつ、まちづくりや地域づくりにも貢献するシステムとして育っていくように努力してまいりたいと思います。

In Japan, a small country with a population of over 120 million people and more than 78 million vehicles on the road each day, about 1.16 million people are either killed or injured in traffic accidents each year. In addition, congestion in various parts of the country due to the increase in demand for vehicles causes lost time of about 3.8 billion man-hours — worth about 12 trillion yen — nationwide each year.

However, it is difficult to construct a road network sufficient to accommodate this huge volume of traffic due to geographical restrictions such as the lack of land and steep terrain, as well as social restrictions such as excessively concentrated land use. Therefore, to resolve these problems, it is necessary to use road resources efficiently.

Furthermore, Japan is a rapidly aging society, and both the total population and the population of productive-age people will fall; the elderly aged 65 years or older will account for 25% of the population by 2020. An environment that supports greater mobility for the elderly and provides the foundation for a vibrant society thus needs to be established.

ITS, which combines people, roads, and vehicles using state-of-the-art IT technologies, is not only an effective means to resolve these problems but is also an infrastructure which will help revolutionize industry and society in the 21st century. Developing and providing high-quality social services related to road transport, in parallel with rapid technological development, enriches people's lives and improves safety on the road.

At the end of March 2006, the number of vehicles fitted with car navigation units incorporating VICS (Vehicle Information and Communication System) receivers, which provide vehicles with real-time road information, stood at 1.5 million. Full-scale operation of ETC (Electronic Toll Collection System) started in March 2001, and the number of vehicles equipped with ETC on-board units exceeded 1.3 million, accounting for 60% of all vehicles on expressways. ETC has almost entirely eliminated congestion at toll gates, thus improving the roadside environment, and enables variable and flexible toll prices to be set, Smart IC to be constructed, and parking lot and other charges to be settled automatically. Other ITS services, which can solve various regional-specific problems, are being deployed such as bus location systems and provision of map information, providing benefits to many people.

ITS, which has steadily spread in Japan, is now an effective tool for solving social issues, including traffic congestion and environmental problems. Smartway, which moved from the pilot state to the second state, is steadily moving toward full-scale deployment of ITS services in 2007, which will provide substantial road traffic information also in voice and still images.

In January 2006, a project was started to create the world's safest roads based on the New IT Reformation Strategy decided by the IT Strategic Headquarters (chaired by the Prime Minister of Japan) by implementing systems for assisting safe driving by infrastructure-vehicle cooperation. We will continue to promote ITS in close cooperation with various fields and focusing on international information exchanges at the ITS World Congress and international workshops, to ensure that ITS evolves as a major road administration system which can meet a variety of users' needs and help revitalize regional economies.

ITS HANDBOOK 2006-2007 目次

第1章:2007年、さらに広がるスマートウェイ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
現在展開中のITSサービス	
2007年以降、広がるITSサービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
ITSサービスがさらに多様に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
基礎的サービスから多様なITSサービスの実現へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2007年秋、最先端のITSサービスがスタート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
一つの車載器で多様なサービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
一つのITS車載器で多様なサービスへの対応を可能に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
道路上における情報提供サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
道の駅等情報接続サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
公共駐車場決済サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
次世代道路サービスのブラットフォームが展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
次世代道路サービスのシステムは路側機・ITS車載器・路車間通信で構成・	14
プラットフォームの活用で多様な民間サービス実現へ・・・・・・・・・・・・・・・・	
路側機がITS車載器へ多様なサービスを提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
一つのITS車載器で多様なサービスを提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
2007年、日本で動き始める最先端のITSサービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
SMARTWAY 2007—世界一安全で安心な道路交通を試行運用・・・・・・・・	16
Demo2006で既に公開 ······	18
スマートウェイ公開実験で様々なサービスを一つの車載器で実体験・・・・・・	18
第2章 世界一安全で安心な道路交通社会が実現	19
交通事故死者数5,000人以下へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
インフラ協調による安全運転支援システムの実用化を・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
交通事故の大幅削減を目指して ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
事故の約8割にAHS (走行支援道路システム) が有効 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
AHSで交通事故削減へ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
ドライバーの危険の解消を目指すAHS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
AHS―路車協調で安全運転に必要な情報をリアルタイムに提供 ·····	
路車協調のAHSへ期待高まる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
AHSの路車協調システムを展開 ·····	
高度な路車協調システムの実現を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
交通死亡事故ゼロに向けて―安全サービスを広く、低コストで提供・・・・・・	
倍増する高齢ドライバーの安全運転を支援	26
ASVでクルマの安全性向上 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	28
3期15年で次々と実用化進む ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
3つのシステムの技術開発に取り組む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
ASV推進計画、第4期へ······	29
災害時等の情報提供で安全走行支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
道路交通情報提供システム―全国の道路情報を一括提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
事前通行規制情報の提供で安全を確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
アメールシステム―通行規制情報をリアルタイムに自動通知・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
路面状況情報の提供で安全・安心走行を・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
トンネル走行中の車へ、見通しの悪い前方の情報を提供—Demo2006····	
冬道の情報提供で安全・安心に―地域住民と道路管理者が連携・・・・・・・・	
道路管理の高度化で安全・安心を向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
落石検知システム―道路への落石を早期発見し、通行止めを的確に・・・・・・	
トンネル変状監視システム―トンネル内の破損等を素早く把握して管理・・・	
	2.4
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·····35
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プローブ情報で対策を効果的に	·····35 ·····35 ····36
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布 プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に	·····35 ·····35 ·····36 ·····36
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 35 36 36
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布・・・・・・・・・ プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に プローブ情報の活用で詳細な分析が可能に 道路行政サービスの充実に活用	35 36 36 36 36
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布 プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に プローブ情報の活用で詳細な分析が可能に 道路行政サービスの充実に活用 プローブデータで事業の実際の効果を把握	35 35 36 36 36 36 36
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布 プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に ブローブ情報の活用で詳細な分析が可能に 道路行政サービスの充実に活用 ブローブデータで事業の実際の効果を把握 ポイントを絞った対策でより大きな効果を	35 36 36 36 36 37
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布 プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に ブローブ情報の活用で詳細な分析が可能に 道路行政サービスの充実に活用 ブローブデータで事業の実際の効果を把握 ポイントを絞った対策でより大きな効果を 道路IPサイト―道路行政に関する情報を提供	35 36 36 36 36 36 37 37
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布 プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に ブローブ情報の活用で詳細な分析が可能に 道路行政サービスの充実に活用 ブローブデータで事業の実際の効果を把握 ポイントを絞った対策でより大きな効果を	35 36 36 36 36 36 37 37
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布 プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に ブローブ情報の活用で詳細な分析が可能に 道路行政サービスの充実に活用 ブローブデータで事業の実際の効果を把握 ポイントを絞った対策でより大きな効果を 道路旧サイト―道路行政に関する情報を提供	35 36 36 36 36 37 37 37
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路IRサイト―道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握	35 36 36 36 36 37 37 38 39
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路Rサイト―道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援	35 36 36 36 36 37 37 38 39 40
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路Rサイト―道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始	35 36 36 36 36 37 37 38 39 40 40
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路限サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足	35 36 36 36 36 37 37 37 39 39 40
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮	35 35 36 36 36 37 37 38 39 40 40
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にブローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブバーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮	35 35 36 36 36 37 37 38 39 40 40
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮	35 36 36 36 36 37 37 37 38 39 40 41 42
除雪高度化システムー除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システムー凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路Rサイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標の達成へ	35 36 36 36 36 37 37 37 38 39 40 41 42
除雪高度化システムー除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システムー凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路Rサイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標の達成へ京都議定書目標で日本はCO2を6%削減へ	35 36 36 36 36 37 37 37 38 39 40 41 42 42
除雪高度化システムー除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システムー凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路限サイトー道路行政に関する情報を提供プローブバーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標の達成へ京都議定書目標で日本はCOeを6%削減へ自動車交通からのCOe削減がカギを握る	35 35 36 36 36 37 37 38 39 40 41 42 42
除雪高度化システムー除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システムー凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標の達成へ京都議定書目標で日本はCO2を6%削減へ自動車交通からのCO2削減がカギを握る渋滞解消でCO2排出量を削減	35 35 36 36 36 37 37 38 39 40 41 42 42
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報で対策を対しているでは、活力したでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	3535363637373839404142424244444444
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プロープ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報で対策を効果の活用で詳細な分析が可能に道路ではサイトので事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイト一道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したの全を6%削減へ自動車交通からのCO2削減がカギを握る渋滞解消でCO2排出量を削減高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減	3535363637373839404142424244444444
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プロープ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイト一道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したタクシーで事故減少の効果発揮第職したタクシーで事故減少の効果発揮第二年の違成へ京都議定書目標の違成へ京都議定書目標の違成へ京都議定書目標の違成へ京都議定書目標の違成。京都議定書目標の違成、京都議定書目標の違成、京都議定書目標の違成。	35363636373738394041424242444444444545
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プロープ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプロープ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標で理本はCO2を6%削減へ自動車交通からのCO2削減が対策と表演務消でCO2排出量を削減高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減	35363636373738394041424242444444444444444444444444
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路限サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標の達成へ京都議定書目標で日本はCOeを6%削減へ自動車交通からのCOe削減がカギを握る渋滞解消でCOe排出量を削減高速道路の利用率増加でCOe排出量を削減医TCO伸及環境改善ETC利用車のを間割引社会実験が沿道の騒音を軽減環境ロードプライシングで路線転換する大型車が増加・	35353636363737383940414242444444444444444444444444
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標の達成へ京都議定書目標の達成へ京都議定書目標で日本はCO2を6%削減へ自動車交通からのCO2削減がカギを握る渋滞解消でCO2排出量を削減高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減医TCの普及で環境改善ETC利用車の夜間割引社会実験が沿道の騒音を軽減環境ロードブライシングで路線転換する大型車が増加スマートIC導入で高速道路の利用率増加	3535363637373839404142424444454445454646
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化 路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布 プローブ情報で対策を効果的に 走行車を交通観測モニタリング装置に プローブ情報の活用で詳細な分析が可能に 道路行政サービスの充実に活用 プローブデータで事業の実際の効果を把握 ポイントを絞った対策でより大きな効果を 道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供 プローブパーソン調査で人の交通移動を把握 走りやすさマップで安心走行を支援 全国初、九州で2006年3月開始 道路の走りやすさマップ研究会が発足 ドライブレコーダー搭載で事故削減 搭載したタクシーで事故減少の効果発揮 第3章 豊かで環境に配慮した社会が進展 京都議定書目標で日本はCO2を6%削減へ 自動車交通からのCO2削減がカギを握る 渋滞解消でCO2排出量を削減 高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減 ETC利用率50%でCO2を年間約13万t削減 ETC利用率ので間割引社会実験が沿道の騒音を軽減 環境ロードブライシングで路線転換する大型車が増加 スマートに導入で高速道路の利用率増へ 高速道路の利用性向上と地域振興を	353536363737383940414242424445454646464748
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報で対策を効果の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第3章豊かで環境に配慮した社会が進展京都議定書目標で日本はCO2を6%削減へ自動車交通からのCO2削減がカギを握る渋滞解消でCO2排出量を削減高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減を正て利用率50%でCO2を年間約13万t削減を正て利用率の夜間割引社会実験が沿道の騒音を軽減環境ロードブライシングで路線転換する大型車が増加スマートに導入で高速道路の利用率増へ高速道路の利用性向上と地域振興をスマートIC。本格導入へ	35353636373738394041424242444545464646464848
除雪高度化システム一除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム一凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報で対策を効果のに遺路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を遺路旧サイトー遺路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始遺路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したタクシーで事故減少の効果発揮第一次で環境に配慮した社会が進展京都議定書目標で日本はCO2を6%削減へ自動車交通からのCO2削減がカギを握る渋滞解消でCO2排出量を削減高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減を正ての普及で環境改善 正て利用率のでのでのでは関連を削減を正し、対策が関連を削減では関係でででは、対策が対策を関減である。 までは、対策が対策が対策を対域を対象が対策を表し、対策が対策が対域の場合を軽減環境ロードブライシングで路線転換する大型車が増加・スマトに引入で高速道路の利用率増へ高速道路の利便性向上と地域振興をスマートに、本格導入へ周辺の混雑軽減とともに、物流を高度化一亀山PAスマートに	3535363637373839404142424445464646474848
除雪高度化システム―除雪車へのGPS搭載で作業を効率化路面凍結予測システム―凍結防止剤を効率的・効果的に散布プローブ情報で対策を効果的に走行車を交通観測モニタリング装置にプローブ情報で対策を効果の活用で詳細な分析が可能に道路行政サービスの充実に活用プローブデータで事業の実際の効果を把握ポイントを絞った対策でより大きな効果を道路旧サイトー道路行政に関する情報を提供プローブパーソン調査で人の交通移動を把握走りやすさマップで安心走行を支援全国初、九州で2006年3月開始道路の走りやすさマップ研究会が発足ドライブレコーダー搭載で事故削減搭載したタクシーで事故減少の効果発揮第載したタクシーで事故減少の効果発揮第載に書目標の達成へ京都議定書目標で日本はCO2を6%削減へ自動車交通からのCO2削減がカギを握る渋滞解消でCO2排出量を削減高速道路の利用率増加でCO2排出量を削減医TCの普及で環境改善医TC利用車の夜間割引社会実験が沿道の騒音を軽減環境ロードブライシングで路線転換する大型車が増加スマートに導入で高速道路の利用率増へ高速道路の利用を増加、こマートに導入で高速道路の利用率増へ高速道路の利便性向上と地域振興をスマートにの	353536363737383940414242424444454546464647484950

_ 第4章 快適で利便性の高い社会か広かる ・・・・・・・・・・・6Ⅰ
カーナビの進化で活躍シーン拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
2006年中に2,500万台突破へ62
本来のナビゲーション機能から大きく進化・・・・・・・・・・・62
ナビゲーション機能の高度化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
安全運転支援機能の向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
エンターテイメント機能の充実化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
VICSが累計1,500万台突破、さらに先へ・・・・・・・・・・・・・・・・66
カーナビへの搭載率は5年連続70%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
最新の道路交通情報をクルマに提供
5.8GHz DSRCの活用でVICS情報をさらに高精度へ・・・・・・・・67
ETC利用率60%超、さらに技術の活用拡大へ・・・・・・・・・・・・68
1日480万台以上が利用、2007年春に利用率75%へ・・・・・・・・・・・・68
利用者の87.5%が「快適さや便利さなどが得られた」・・・・・・・・・・・・68
料金所渋滞が解消69
多様な料金施策の展開で高速道路利用率増へ ・・・・・・・・・70
主なETC普及促進策 ·····71
経団連の要望を受け、ETC関連技術を多目的利用へ ······72
公共駐車場決済サービス
既存ETC車載器活用の駐車場ETC社会実験 ······74
ITS車載器による決済サービス公開実験—Demo2006 · · · · · · · · · · · · 75
道の駅等情報接続サービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
5.8GHz DSRCを使って各地で実証実験 76
タウンカーライフナビ―市街地での的確な情報提供で交通環境を改善・・・・・77
路上工事情報の提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
路上工事マネジメントで走行をスムーズに ・・・・・・・・・・78

第5章 ITSの推進方策 ······79
ITSを国家的プロジェクトとして推進・・・・・80 産学官が連携する推進体制・・・・80
ITSを国家的プロジェクトとして推進・・・・・・・80
スマートウェイ推進会議を取り組みの中核に ・・・・・・・・82
スマートウェイ推進会議作業部会で検討を重ねる・・・・・82
スマートウェイの推進に係わる官民連携を強化・・・・・82
産官学が連携・・・・・・83
官民共同研究が成果を公表・・・・・・・・・・・・・・・・84
共同研究、2006年3月に最終とりまとめ・・・・・・84
5.8GHz DSRCをベースに、次世代道路サービスを一つのITS車載器で・・・・・85
地域や市民が一体となって推進・・・・・・86
地域の産学官が連携して推進86
ITS関連施設整備事業で地域へのITS導入を促進 ·····87
国際標準化に向けて積極的に活動 ・・・・・・・・・・・88
世界会議へ積極的に参加・・・・・・88
アジア太平洋地域でのITS推進に向けて交流と協調・・・・・・88
ISO: 国際標準化機構 · · · · · · · · 89
ISO/TC204への日本の取り組み ·····90
ITU: 国際電気通信連合 · · · · · · · 9]
5.8GHz帯DSRCがITS分野における世界初の無線通信方式の国際標準に …92

資料編93
システムアーキテクチャ 93 ITSの9つの開発分野と開発・展開計画 93 利用者サービスの詳細定義 94 2つの特徴 101 特徴を具体化するための工夫 101
ITS関連のホームページ(国内)・・・・・・・102

表紙:薩埵峠(左:「東海道五拾三次之内由井」安藤広重、右:大井啓嗣撮影)

2

ITS HANDBOOK 2006-2007 CONTENTS

Smartway further spreading in 2007 · · · · · 5
Today deployed ITS services6
ITS services further spreading in and after 2007 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
More various ITS services · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
The fundamental services will enable various ITS services · · · · · · · · · 10
State-of-the-art ITS service to start in autumn 2007
Providing various services with a single ITS on-board unit · · · · · · · · · · 12
A single ITS on-board unit to provide various services12
Information provision services along roadways · · · · · · · · · · · · · · · · · 12
Information connection services at roadside rest areas · · · · · · · · 13
Public parking lot payment services13
Deployment of the platform for next-generation road services · · · · · · · · 14
Next-generation road service system consisting of roadside units,
ITS on-board units, and road-vehicle communication · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
A common platform for deploying various private services
Various services provided by roadside units to ITS on-board units · · · · · · · · · 15
Providing a varity of services with a single ITS on-board unit
State-of-the-art ITS services will start in 2007 in Japan · · · · · · · · · · · · 16
Smartway 2007 Deployment of the world's safest roads
on an experimental basis16
Demonstrated in "Demo 2006" 18
Smartway open trial to experience various services
through a single ITS on-board unit · · · · · 18

Actualizing the world's safest roads · · · · · 19
To reduce traffic accident fatalities to less than 5,000 · · · · · · · · · · · 20 Implementing systems to support safe driving
by infrastructure-vehicle cooperation · · · · · · 20
Dramatic reduction of traffic accidents21
AHS effective for about 80% of accidents · · · · · 21
Reducing traffic accidents with AHS22
AHS to free drivers from danger
AHS provide real-time information necessary for safe driving by road-vehicle cooperation22
Increasing expectations for advanced road-vehicle cooperation systems ····23
Deploying road-vehicle cooperation systems for AHS24
Aiming to deploy an advanced road-vehicle cooperation systems · · · · · · · 25
Safety services for many people, at low cost, and elimination of fatal accidents · · 26
Supporting elderly drivers who will double in number · · · · · · · · · · · 26
ASV systems to enhance the safety of drivers28
Steady deployment of ASV in the last 15 years (three phases)
Developing technologies for three systems
Assisting safe driving by providing appropriate information during disasters · 30
Providing comprehensive information about all highways in Japan
through road traffic information provision system · · · · · · · · · · · · · · · · · 30
Ensuring safety by forewarning of traffic regulations31
A-mail System Automatic provision of traffic restriction information in real time · · 31
Provision of information on road surface conditions for safety and safe driving $\cdot \cdot 32$
Providing of information on upcoming road sections
with poor visibility to drivers in tunnels —"Demo 2006" · · · · · · · · · · 32 Joint information provision by residents and road managers
for safety and safe driving on winter highways · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Advanced road management to improve safety and safe driving34
The rockfall warning system guickly detecting rocks on the road
and closing the road appropriately34
The tunnel deformation warning system quickly detecting damage to tunnels $\cdot \cdot 34$
Advanced snow removal system for efficient snow removal
using snowcleaning vehicles installed with GPS
Efficient and effective application of anti-freezing agent using the road-surface frost prediction system
Probe information to enable effective measures to be provided
Probe cars effectively monitor traffic flow
Probe informatiion enable precise analyses
Utilized to enable substantial road administration services to be provided · · · · 36
Probe data to understand the actual effects of projects · · · · · · · · · · · · · · 37
On-spot measures to increase effects · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Road IR Site providing information on road administration
Probe persons to monitor the movements of people
Assisting safe driving with easy-to-drive maps
Study Group on Easy-to-Drive Road Maps formed in July 200641
Reducing accidents by installing drive recorders42
Drive recorders mounted on taxis effectively reduced accidents42
•

Affluent and environment-friendly society in progress ·····43
Aiming to attain the target of the Kyoto Protocol · · · · · · 44
Japan's target in the Kyoto Protocol is to reduce CO2 emissions by 6% · · · · · 44
Reduce CO ₂ emissions from vehicles is the key · · · · · · · · · · · · 44
Reduce CO ₂ emissions by easing congestion · · · · · · · · 45
Reduce CO ₂ emissions by increasing the use of expressways · · · · · · · · · 45
Spreading ETC to improve the environment46
ETC utilization rate of 50% reduces CO2 emissions by 130 thousand tons · · 46
Roadside noise reduced by ETC nighttime discount field trial · · · · · · · · 46
Environment Road Pricing increased heavy vehicles
taking different routes47
Deploying Smart Interchanges to increase the utilization rate of expressways · · 48
Improving the convenience of using expressways and
promoting the regional economy48
Full-scale deployment of Smart Interchanges · · · · · · 49
The Kameyama PA Smart Interchange mitigates congestion
on nearby road sections and improves physical distribution50

Chojahara SA Smart IC increases the use of expressway 50 Sagae SA Smart Interchange enables ambulances to use the expressway to carry patients to modern medical facilities 51 Sue PA Smart Interchange also serves as an emergency exit from the expressway 51 Reduce CO2 emissions 52 Constructing efficient and environment-friendly distribution system 52 Advanced distribution and efficient collection of freight for improved roadside environment 53 Promoting the use of buses with bus location system 54 Nationwide deployment of highway bus location system 54 Q-Bus Search expanded to major highway bus routes in Kyushu 55 Niigata Bus-i providing information of highway buses in and outside	
the prefecture	

Making society more comfortable and convenient61
Car navigation systems have evolved and provide more services 62 Exceeding 25 million units by the end of 2006 62 Huge evolution from the car navigation function 62 Advanced car navigation function 63 Improved safe driving assistance 64 Substantial entertainment services 65 VICS has been installed in over 15 million vehicles in total,
and the number is still increasing · · · · · · 66
Over 70% of all car navigation system shipped came with built-in VICS units
in the last five years 66 Providing the latest road traffic information to drivers 66 Improving the accuracy of VICS information by using 5.8 GHz DSRC 67
ETC utilization ratio exceeded 60% and the technologies will be increasingly used …68 Used by over 4.8 million vehicles a day, utilization rate to 75% by spring 2007 …68 87.5% of users mentioned "ETC is comfortable and convenient"68
ETC solved congestion near toll gates
Use of ETC-related technologies for various purposes requested
by the Japan Federation of Economic Organizations
Field trial of Parking lot ETC using existing ETC on-board units
Information connection services at roadside rest areas 76 Proving tests at various sites using 5.8 GHz DSRC 76
"Town Car Life Navi" to improve the traffic environment by providing appropriate information77
Provision of information on road work
Measures for promoting ITS79

Measures for promoting ITS79
Promotion of ITS as a national project
Promoting ITS with communities and residents · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Moving toward international standardization 88 Actively participating in world conferences 88 Interchange and cooperation for ITS promotion in the Asian and Pacific region 88 ISO:International Organization for tandardization 89 Japan's activities for ISO/TC204 90 ITU: International Telecommunication Union 91 ITU adopted the 5.8 GHz band DSRC as the first international radio
communications standard for ITS 92

APPENDIX
System Architecture 93
Time-tables for the development and deployment of ITS in Japan93 Detailed definition of user services94
The two features
Measures taken for actualization of the two features101

Cover: Satta-toge Pass (Left: "Yui" of the "Fifty-three stations on the Tokaido Road" ANDO Hiroshige, Right: Photograph taken by Ol Hirotsugu)

2007年、さらに広がるスマートウェイ

現在展開中のITSサービス
2007年以降、広がるITSサービス
ITSサービスがさらに多様に
一つの車載器で多様なサービス
次世代道路サービスのプラットフォームが展開
2007年、日本で動き始める最先端のITSサービス
Demo2006で既に公開

Smartway further spreading in 2007

Today deployed ITS services

ITS services further spreading in and after 2007

More various ITS services

Providing various services with a single ITS on-board unit

Deployment of the platform for next-generation road services

State-of-the-art ITS services will start in 2007 in Japan

Demonstrated in "Demo 2006"